

2021年3月期 第3四半期 決算ハイライト

(決算記者会見 配布用)

2021年2月5日

株式会社 **クレスコ**



① 決算のポイント



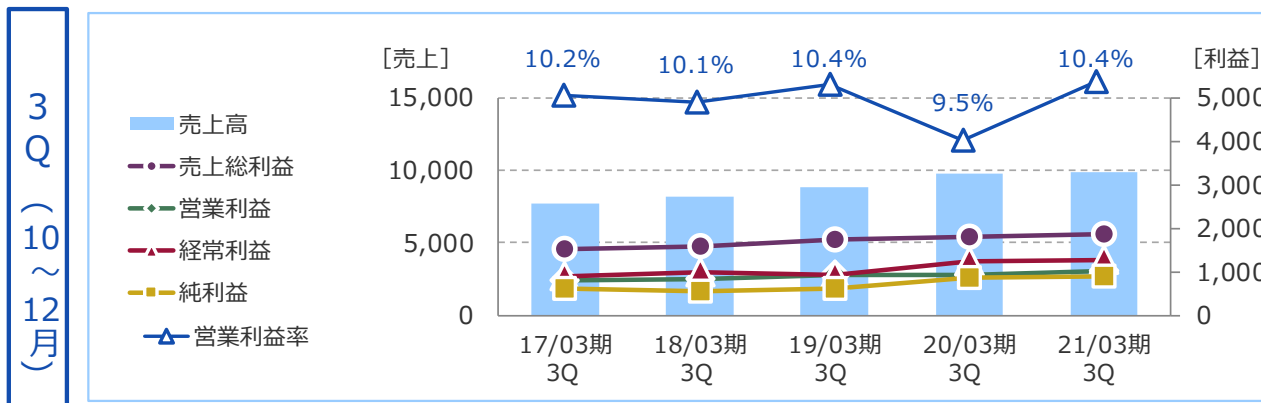
[単位：百万円未満切捨]

- 第3四半期に入り、景況感はやや持ち直す。売上高は回復基調に。
- 対面営業の活動制限により、オンライン商談を推進するも、新規顧客開拓は従前の勢いには至らず。
- 営業利益率は、不採算プロジェクトの極小化と、生産性向上が寄与し、着実に改善。
(第1四半期：4.5% → 第2四半期：7.1% → 第3四半期：8.2%)
- 純利益は、投資有価証券売却益による特別利益の増加により、増益を確保。

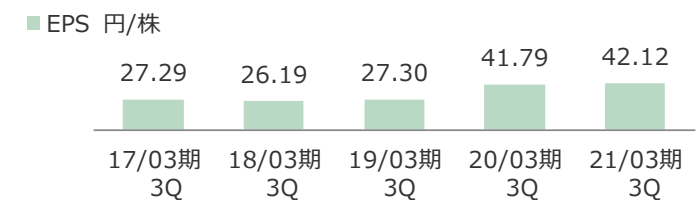
■ 売上高 ... 61百万円の増収(前年同期比 0.2%増) ■ 経常利益 ... 18百万円の減益(前年同期比 0.6%減)
■ 営業利益 ... 2億65百万円の減益(前年同期比 10.0%減) ■ 当期純利益 ... 1億89百万円の増益(前年同期比 9.5%増)

3Q累計	19/03期		20/03期		21/03期		前年同期比	対通期進捗率
	売上高	営業利益率	売上総利益	営業利益率	売上高	営業利益率		
売上高	25,828		28,957		29,018		100.2%	72.5%
売上総利益	4,809	(18.6%)	5,379	(18.6%)	5,127	(17.7%)	95.3%	
営業利益	2,316	(9.0%)	2,653	(9.2%)	2,388	(8.2%)	90.0%	70.2%
経常利益	2,654	(10.3%)	3,141	(10.8%)	3,123	(10.8%)	99.4%	86.8%
純利益	1,673	(6.5%)	2,003	(6.9%)	2,193	(7.6%)	109.5%	89.5%
注 EPS 円/株	76.49		94.09		104.46			

通期業績予想	21/03期		前年同期比
	20/5/8 予想	対通期進捗率	
売上高	40,000		101.7%
営業利益	3,400	(8.5%)	95.6%
経常利益	3,600	(9.0%)	97.0%
純利益	2,450	(6.1%)	101.2%
注 EPS 円/株	116.67		



注 2020年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。17/03期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して、「EPS」を算定しております。

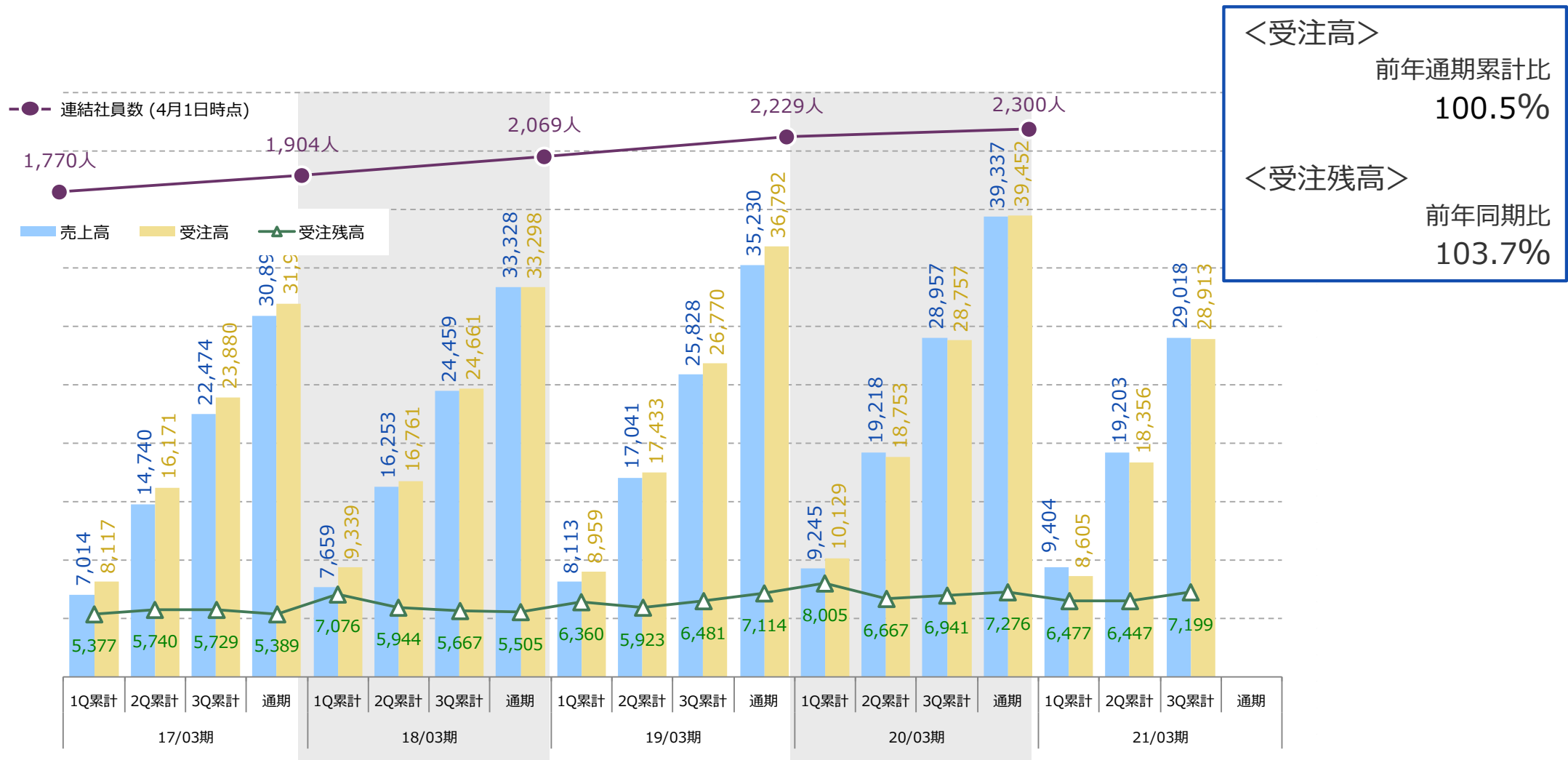


【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。
 【注】 「純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」です。

[単位：百万円未満切捨]

■ 第3四半期に入り、受注状況は徐々に改善傾向に。デジタル変革(DX)への取組みが後押し。

- ソフトウェア開発 … 特に、コロナ禍の影響が大きい旅行・空輸関連の受注が厳しいが、全体では、着実に増加。
- 組込み型ソフトウェア開発 … 顧客別(主に製造業)には濃淡はあるが、全体では前年並みの水準に近づく。



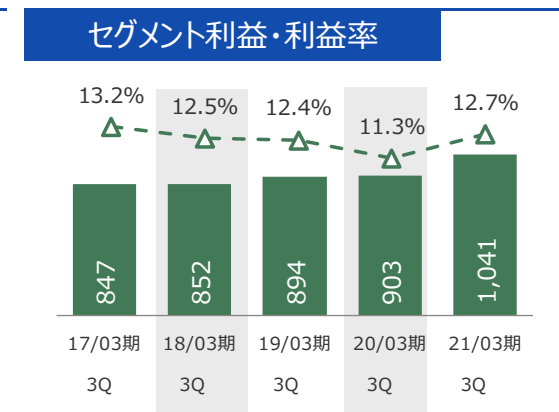
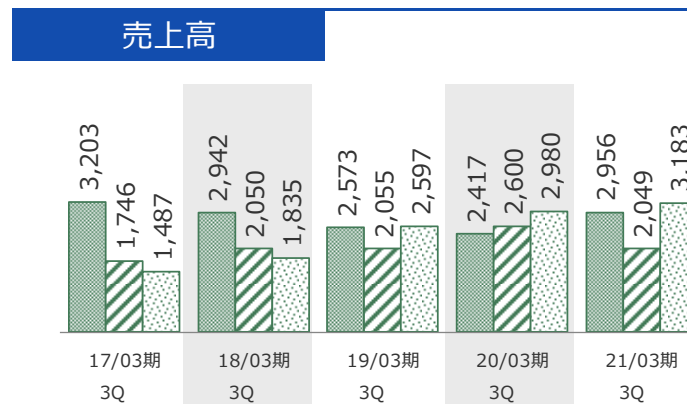
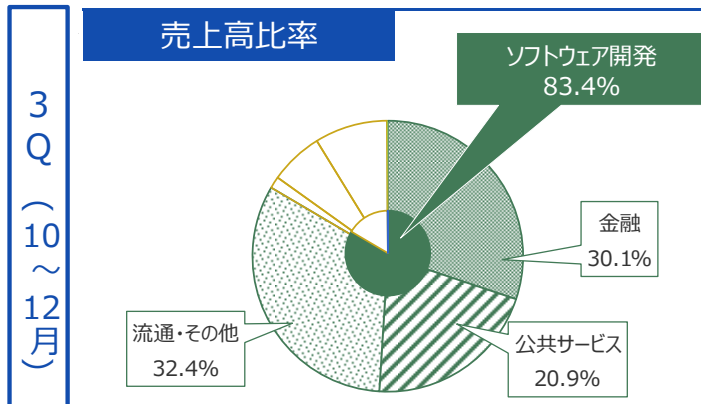
[単位：百万円未満切捨]

ソフトウェア開発

- 「公共サービス」の落ち込みを、「金融」および「流通・その他(新規連結を含む)」でリカバーし、1.5%の増収。
- セグメント利益は、上半期に比べて生産性が改善するも、不採算案件の発生等により、6.0%の減益。

- 金融 … 銀行や生命保険のシステム開発・保守案件の増加により、16.4%増収。(前年同期比12億53百万円の増収)
- 公共サービス … 観光需要の急減や人材関連の大型案件の剥落に伴い、18.1%減収。(前年同期比 13億8百万円の減収)
- 流通・その他 … 「(株)エニシアス」の新規連結効果により、4.6%増収。(前年同期比 4億6百万円の増収)

		19/03期	20/03期	21/03期	前年同期比	
3 Q 累 計	ソ フ ト ウ ェ ア	金融	7,797	7,653	8,907	116.4%
		公共サービス	6,266	7,213	5,904	81.9%
		流通・その他	7,099	8,888	9,295	104.6%
		21,163	23,755	24,107	101.5%	
	セグメント利益(率)	2,313 (10.9%)	2,637 (11.1%)	2,479 (10.3%)	94.0%	



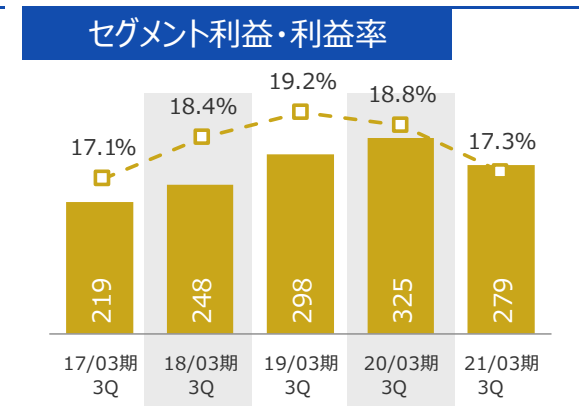
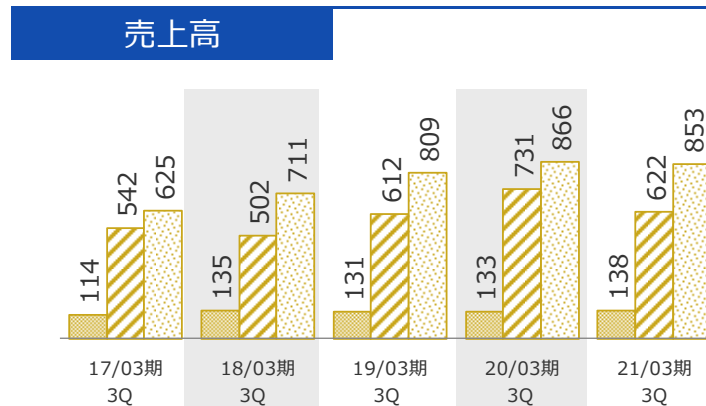
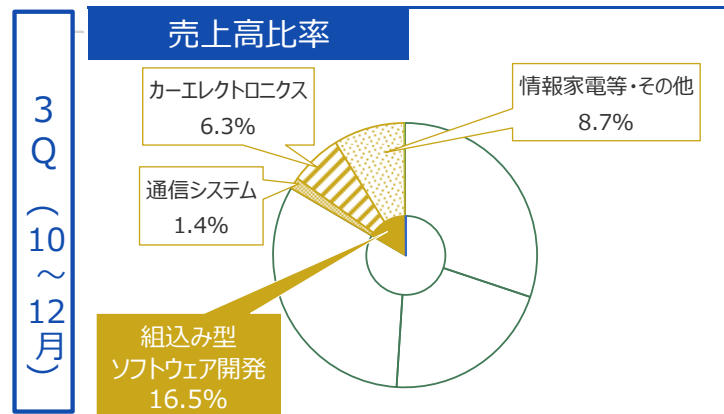
[単位：百万円未満切捨]

組込み型ソフトウェア開発

- 売上高は、上半期の落ち込み分をリカバーできず、5.6%の減収となったが、全体では回復基調に。
- セグメント利益は、上半期に比べて生産性が改善するも、受注単価低減等により、17.2%の減益。

- 通信システム … スマートフォン関連は、現体制維持 7.3%増収。(前年同期比 28百万円の増収)
- カーエレクトロニクス … インフォテイメント系、センサー系の開発は、1.5%減収。(前年同期比 33百万円の減収)
- 情報家電等・その他 … 主として、子会社の制御系開発案件の減少により、11.0%減収。(前年同期比 2億87百万円の減収)

3Q累計		組込み型	売上高	19/03期	20/03期	21/03期	前年同期比
				通信システム	383	389	417
カーエレクトロニクス	1,801	2,183	2,149	98.5%			
情報家電等・その他	2,446	2,602	2,315	89.0%			
				4,631	5,175	4,883	94.4%
セグメント利益(率)				855 (18.5%)	971 (18.8%)	804 (16.5%)	82.8%





② 今期の見通し



来期を見据えた顧客のIT投資計画に期待。環境変化に適応した提案が鍵。
ニューノーマル(新常態)を踏まえ、ビジネスを加速する本格的な「デジタル変革」の時代が到来。

- 在宅勤務やデジタルツールを活用したコミュニケーションは定着し、**事業活動への支障は減少**。
- 再度発出された緊急事態宣言や、新型コロナウイルスの変異種の発生により、年度末に向けた**受注への影響が懸念**。
- 「デジタル庁設立」、「デジタルの日の創設」の動きは、デジタル変革(DX)を促進し、**事業機会を創出**。

【ご参考】 景気判断の調査等

2020年12月の日銀短観 [2020年12月14日発表]

代表的な指標の大企業・製造業の業況判断指数(DI)が、前回9月調査より17ポイント改善してマイナス10に。
また、大企業・非製造業は7ポイント改善のマイナス5となり、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて急落した6月調査を底に、景況感は2四半期連続で持ち直し。

政府による12月の月例経済報告 [2020年12月22日発表]

「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。」
旨の判断。

IDC Japanの2020年度国内ICT市場予測 (9月末時点の市場予測のアップデート) [2021年1月6日発表]

2020年のIT市場は、前回レポートから1.9ポイント改善し、前年比6.3%減の17兆1162億円と予測。
2021年は、市場の回復により前年比2.9%増の成長となるが、IT支出がCOVID-19感染拡大以前の水準に回復するのは2022年以降になると予測。

※上記の予測は、COVID-19に関して、国内外共に2020年前半で感染がいったん抑制されて経済活動が正常化した後も、局地的に感染が再発して回復の阻害要因となるものの、一部の先進企業を中心にデジタルトランスフォーメーション(DX)への投資が活性化し、景気対策の一環として政府によるICT投資が選択的に行われることを前提に基づく。

アップデート

1. クレスコグループの新型コロナウイルスへの対応

- 2月27日、「新型コロナウイルスに関する当社の対応について」を公表。詳細はホームページで随時更新。

【基本対応方針】

- (1) 従業員等およびその家族の生命の安全・健康を確保する。
- (2) 事業に与える被害の最小化を図る。
- (3) お客様・取引先・株主等に悪影響を及ぼさない。
- (4) 地域経済の早期安定化へ貢献する。
- (5) 各種対応の際は、常に人道面で配慮する。

- 4月6日、クレスコ本社に『コロナ緊急対策本部』を設置。現在は、**定例ミーティングを隔週で実施。**
- [2020年9月28日 プレスリリース] デジタルツールを活用し、**10月1日からテレワーク体制を強化。**
- 政府や自治体の要請(緊急事態宣言を含む)に準じた施策を**適宜アップデートし、社内に徹底。**

- ・ 原則として、社員・ビジネスパートナーを含め、在宅勤務を指示。
- ・ テレワークと時差通勤の有効活用と3密（密閉、密集、密接）を避けた出社体制。
- ・ 当社主催の集合形式のイベントは、中止/延期/オンライン開催。
- ・ 会議は、原則としてオンライン実施。
- ・ 業務上の外出制限として、海外渡航は原則禁止とする。
- ・ マスク着用、咳エチケット、手洗い・うがい、アルコール消毒液利用の徹底。希望者へのマスク配布。
- ・ 平熱よりも高い熱がある場合は出社停止。濃厚接触者に該当する場合は14日間の就業禁止。
- ・ 同居者が感染の疑いがある場合は出社停止。

2. 新型コロナウイルス禍における事業リスクと脅威(マイナス面)に関する認識

- 新型コロナウイルスの感染状況や専門家による収束見通しを鑑みると、**第4四半期も、複数の事業等リスクが同時あるいは時間差で発生し、**クレスコグループの経営成績等の状況に重要な影響を与える可能性がある。

- 経営環境の変化に関するリスク
- 特定の取引先への依存度に関するリスク
- 協力会社(ビジネスパートナー)との連携体制に関するリスク
- 就業および健康に関するリスク
- 感染症に関するリスク

など。

■ 当社企業グループの事業特性による影響

- 顧客との継続的な取引関係をベースとする事業特性により、特定の取引先に対する売上高の割合が大きくなる傾向にある。
- 主要な顧客の業種には、新型コロナウイルスの影響が大きい旅行・空輸・不動産・自動車関連の企業が含まれており、IT投資における景気の遅効性の観点から、年度内は新規受注が厳しい状況が続く可能性が高い。

- 第3四半期に入り、内外の経済活動が少しずつ再開され、「新しい生活様式」や「ニューノーマル(新常态)」に即して景気の底は脱したとみられたが、12月に入り、感染者は増加に転じ、年末年始の感染爆発に起因した主要都市部での緊急事態宣言や新型コロナウイルスの変異種の発生は、大きな懸念材料。対人接触型サービスを中心に再び業況が悪化する可能性が高く、先が見えない状況。

- 対面営業の制限やIT投資の見直しによるプロジェクトの中止・中断・延期等は、経営成績等に影響を及ぼす。
- 待機要員の発生や感染者発生による事業所業所の一時閉鎖は、稼働率・生産性に影響を及ぼす。

3. 事業機会(プラス面)に関する認識

- 当社企業グループは事業機会を着実に取り込み、更なる飛躍を果たすため、2016年4月「デジタル変革をリードする」ことを標榜した5ヶ年のビジョン「CRESCO Ambition 2020」を掲げ、業績目標の達成、重点施策の具現化、企業価値の向上を目指している。

【コーポレートスローガン】 Lead the Digital Transformation 「クレスコグループ」はデジタル変革をリードします。

- **2020年度は、積極的な事業展開が非常に難しい局面だが、「ニューノーマル(新常態)」に即したテレワーク制度の活用やスペース効率の最適化、オフショア・ニアショアの推進といった、「攻めの施策」の実践が重要と認識**している。
- 事業リスクには、マイナス面(不確実性)とプラス面(機会)の2つの側面がある。新型コロナウイルス禍におけるマイナス面に対しては、適切な回避策及び対応策を講じるとともに、プラス面については、積極的なリスクテイクを通じて、持続的な成長と企業価値の向上につなげていく。
- 新型コロナウイルス禍を機に、BCP(Business Continuity Plan : 事業継続計画)対策を含め、改めて見直されるクラウド環境の整備や、テレワーク・在宅勤務制度の導入、AIやRPAを活用した省人化・自動化対応等、顧客の要望は増加傾向にあり、先端技術を含む幅広い事業領域を有するクレスコグループにとって、**新たな事業機会となる**と考えている。
- 新型コロナウイルス禍は中長期視点では一過性のものであり、「デジタル変革」は、着実に拡大すると予測。**「ピンチのときこそ、チャンスは到来する」と前向きに捉える**
- ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえ、事業ポートフォリオの最適化と柔軟な組織経営に努めると共に、**市場ニーズに適時・的確に応えることができる技術力の保持と、革新的な新規ビジネスの組成に取り組む。**

4. 2021年3月期の連結業績予想について

アップデート

- 新型コロナウイルス禍によるクレスコグループの業績への影響は『**精緻に把握することが困難**』。
- **現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断により、現状認識に関する内容の一部を見直し。**

① 新型コロナウイルス禍は改善基調ではあるものの、年内の収束は難しく、影響は通期にわたる。

【現状認識の見直し】

第3四半期に入っても新規陽性者数は依然増加傾向にあり、年度末にかけても収束は難しい見込み。
第3四半期以降、顧客の引き合いは改善傾向にはあり、対面営業も徐々に戻っているが、
新規取引先の獲得を含め、従前の勢いには至っておらず、当社企業グループへの影響は、通期に渡ると認識。

② 主要顧客の景況感は依然として回復しておらず、下期も厳しい受注状況となる。

【現状認識の見直し】

事業環境は第3四半期に入っても、新型コロナウイルス(変異種を含む)の第3波が発生するなど、思うように好転せず。
主要顧客、特に旅行・空輸・不動産・自動車関連への影響は下期にも及んでおり、受注状況は引き続き予断を許さない、と認識。

③ 2020年4月1日付で「(株)エニシアス」を連結子会社としており、業績の底上げを期待。

エニシアスは、「Google Cloud」や「Salesforce」のパートナーとしてクラウドビジネスに強みを有しており、
新型コロナウイルス感染症の拡大に起因するテレワーク環境下においても、その強みを発揮して収益機会を獲得。

④ 生産性向上・コスト削減・不採算案件の極小化に注力し、通期業績予想は前年度並みに着地。

【現状認識の見直し】

2020年の年末から生じた新型コロナウイルスの感染爆発により、年度末に向けた事業環境の好転は期待できず。
景気の回復は緩やかなペースにとどまる見込みであることから、
イノベーションの実行による生産性向上と、聖域なきコスト削減による収益力の改善が必要と認識。

[単位：百万円未満切捨]

- 2020年5月8日発表の連結業績予想に、変更なし。
- 新型コロナウイルス禍の、第4四半期以降の状況や収束時期等を含む現状認識について、見直しを行い、引き続き動向を注視。
- 今後、仮定の誤りにより開示すべき事象が発生した場合、速やかに公表。

	20/03期					21/03期	
	19/5/9 予想	前年 同期比	実績	前年 同期比	達成率	20/5/8 予想	前年 同期比
	通期						
売上高	37,880	107.5%	39,337	111.7%	103.8%	40,000	101.7%
売上総利益			7,246 (18.4%)	108.6%			
営業利益	3,400 (9.0%)	106.0%	3,556 (9.0%)	110.9%	104.6%	3,400 (8.5%)	95.6%
経常利益	3,813 (10.1%)	104.2%	3,712 (9.4%)	101.5%	97.4%	3,600 (9.0%)	97.0%
純利益	2,416 (6.4%)	105.7%	2,421 (6.2%)	105.9%	100.2%	2,450 (6.1%)	101.2%
注 EPS 円/株	114.28		114.30			116.67	

【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。

【注】 「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。

注 2020年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で**株式分割**を行っております。

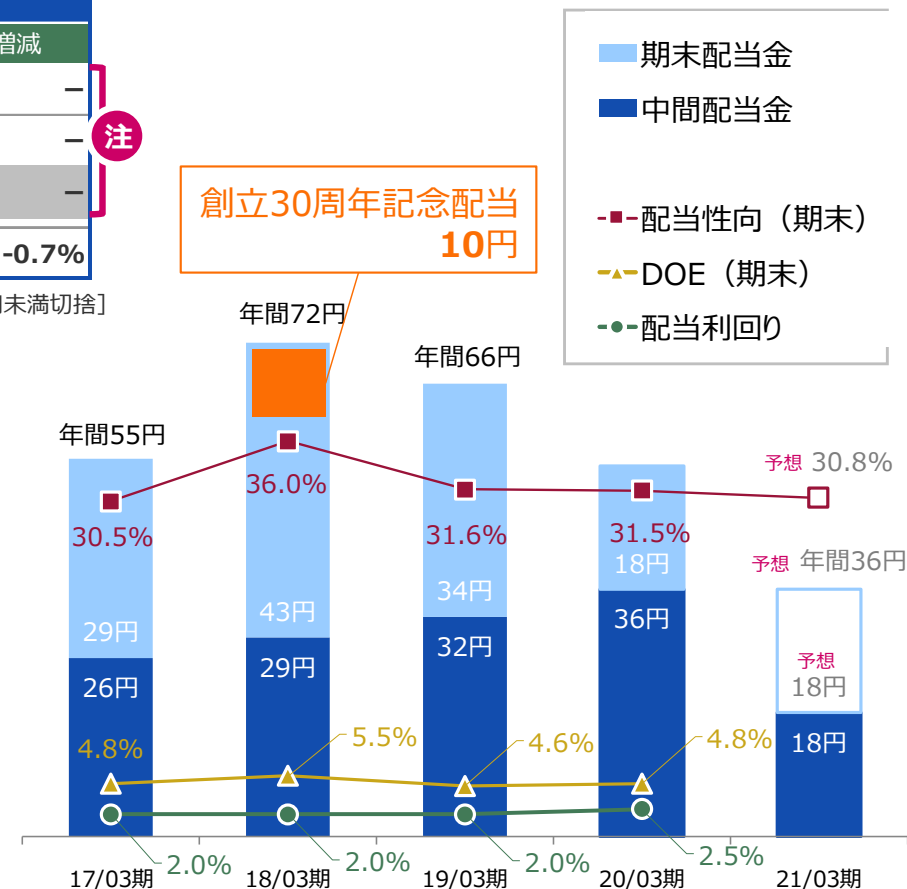
■ 2020年5月8日に発表した配当予想に、変更なし。

	19/03期 実績	20/03期 実績	21/03期		増減
			実績	20/5/8 予想	
中間	32円	36円	18円	18円	-
期末	※ 34円	18円	-	18円	-
年間	66円	54円	-	36円	-
配当性向	31.6%	31.5%	-	30.8%	-0.7%
配当利回り	2.0%	2.5%	[配当金の総額：百万円未満切捨]		
DOE	4.6%	4.8%			
配当金の総額	722百万円	750百万円			

※2018年3月期の期末配当は、創業30周年記念配当含む

株主還元方針

- ▶ 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。
- ▶ 特段の株主優待は行っておりません。
- ▶ 配当に関しましては、原則、**連結経常利益**をもとに、特別損益を零とした場合に算出される**親会社に帰属する当期純利益**の30%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。



注 2020年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

- 17/03期中間～20/3期中間は分割前の実際の配当金の額を記載しております。
- 20/03期の合計は、株式分割の実施により単純計算ができないため記載しておりません。



【ご参考】

経営方針

- 「CRESCO Ambition 2020」に沿った経営
- 新規顧客の獲得および
事業ポートフォリオの最適化による受注の確保
- 先端技術を活用した
高付加価値ビジネスの創出による利益の拡大
- 働き方改革への継続的な挑戦による
生産性および社員満足度の向上
- アライアンスの推進による成長力の加速

2016年4月始動の5ヶ年ビジョン

CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation
～『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝くクレスコ

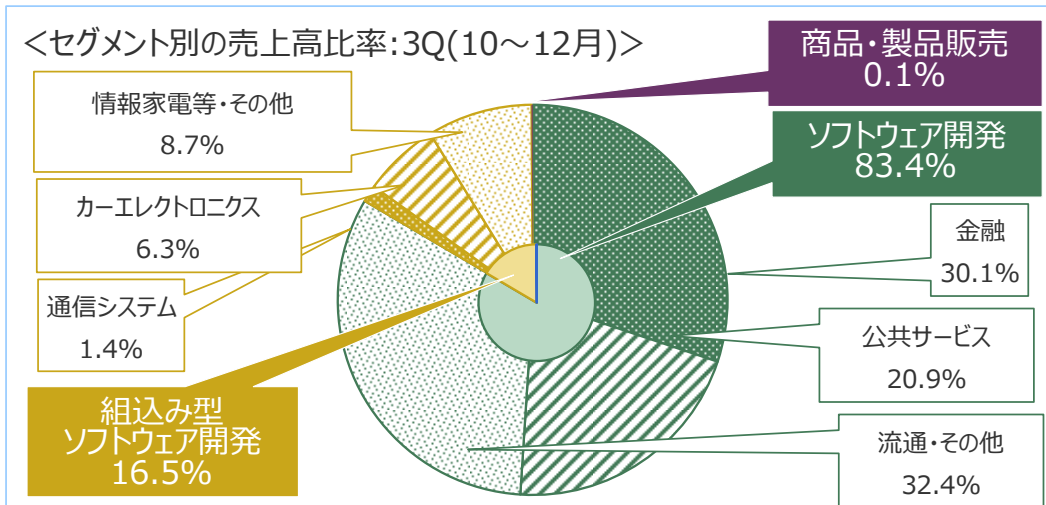
対処すべき課題

1. 新規ビジネスの組成と
新技術の研究・開発
2. 新規顧客の獲得および
お客様とのリレーションシップの強化
3. 鉄板品質の提供
4. 生産性の追求
5. 開発に従事する人材の確保
6. 人材の採用と育成
7. 働き方改革の推進
8. 健康経営の推進
9. ダイバーシティへの取り組み
10. M&A・アライアンスの推進と
グループ企業に対する管理の強化
11. コーポレート・ガバナンスの推進
12. 事業ポートフォリオの最適化と
柔軟な組織経営

	2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クレスコワイヤレス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
アイオス 【※4】【※8】【※10】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クレスコ九州 【※11】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クレスコ上海 【※3】	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
シースリー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クリエイティブジャパン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
メクセス 【※1】【※6】【※7】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
エヌシステム 【※2】	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ネクサス 【※5】	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
アルス 【※9】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クレスコベトナム 【※12】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	●	●	●	●	●	
エニシアス 【※13】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	
子会社総数	9	10	10	10	10	10	9	10	10	10	11	11	10	11	11	11	12	12	12	

- 【※1】 2015年10月1日付で「メディア・マジック(株)」を子会社化
- 【※2】 2016年9月1日付で「(株)エヌシステム」を子会社化
- 【※3】 2017年9月25日付で「科礼斯軟件(上海)」は清算終了
- 【※4】 2017年10月2日付で「アイオス」は「(株)アプリケーションズ」を子会社化(当社の孫会社)
- 【※5】 2018年1月12日付で「(株)ネクサス」を子会社化
- 【※6】 2018年3月12日付で「メディア・マジック」は「メクセス」に商号変更
- 【※7】 2018年4月1日付で「メクセス」は「アイオス 関西営業所」を統合

- 【※8】 2018年4月1日付で「アイオス」は「アプリケーションズ」を統合
- 【※9】 2018年10月1日付で「アルス(株)」を子会社化
- 【※10】 2018年11月1日付で「アイオス」は「イーテクノ(株)」を子会社化(当社の孫会社)
- 【※11】 2019年4月1日付で「クレスコ九州」を統合
- 【※12】 2019年9月17日付で「CRESCO VIETNAM CO., LTD.(クレスコベトナム)」を設立
(営業開始は2019年10月1日から)
- 【※13】 2020年4月1日付で「(株)エニシアス」を子会社化



セグメント	事業	分野
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスアプリケーション開発 ・IT基盤システム構築 ・オリジナル製品・サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融 (銀行、保険 etc.) ・公共サービス (旅行、人材、物流、航空、鉄道、電力、放送、医療 etc.) ・流通・その他 (小売、不動産、情報通信、製造 etc.)
組込型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型ソフトウェア開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信システム (携帯情報端末 etc.) ・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.) ・情報家電等・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売 	

開示の詳細： https://www.cresco.co.jp/redirect/news/210205_ir2.html



2021年2月5日

各位

会社名 株式会社クレスコ
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸
 (コード番号：4674 東証一部)
 問合せ先 取締役 常務執行役員 杉山 和男
 財務経理本部長
 (TEL 03-5769-8011)

第三者割当による第7回新株予約権の取得及び消却に関するお知らせ

当社は、2021年2月5日開催の取締役会において、2020年1月30日に発行いたしました株式会社クレスコ第7回新株予約権（以下「本新株予約権」といいます。）につきまして、下記のとおり、2021年2月24日付で本新株予約権の全部を取得し、取得後直ちに本新株予約権の全部を消却することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 取得及び消却する新株予約権の内容

(1)	取得及び消却する新株予約権の名称	株式会社クレスコ第7回新株予約権
(2)	取得及び消却する新株予約権の数	4,470個（本新株予約権1個当たり200株）
(3)	取得価額	合計8,144,340円（本新株予約権1個当たり1,822円）
(4)	取得日及び消却日	2021年2月24日
(5)	消却後に残存する新株予約権の数	0個

開示の詳細：https://www.cresco.co.jp/redirect/news/210205_ir1.html

2021年2月5日

各 位

会 社 名 株式会社クレスコ
代表者名 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸
(コード番号：4674 東証一部)
問合せ先 取締役 常務執行役員 杉山 和男
財務経理本部長
(TEL 03-5769-8011)

自己株式の消却に関するお知らせ

当社は、2021年2月5日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づく自己株式の消却について、下記のとおり決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

- | | |
|--------------|---|
| 1. 消却する株式の種類 | 当社普通株式 |
| 2. 消却する株式の数 | 1,000,000株
(消却前発行済株式総数(自己株式を含む)に対する割合 4.17%) |
| 3. 消却予定日 | 2021年2月24日 |

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【 IRのお問合せ】 広報IR担当
Mail : ir@cresco.co.jp
TEL : 03-5769-8058